

社会教育指導員・地域づくり関係職員等研修講座

職員研修

有志指導者研修

要請研修

総参加型の話し合いによる合意形成の良さやファシリテーションの手法について学ぶことを目的とし、研修講座を開催しました。社会教育や地域づくりを担当する職員等31名が受講し、講義とグループ演習を通して、話し合いによる合意形成のプロセスについて理解を深めました。

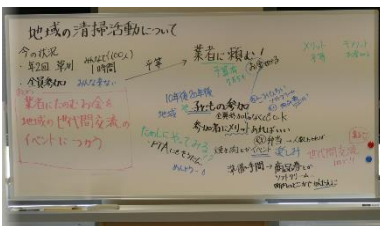
コミュニティは勝手にはできない→「つくる」もの



船戸 義和 氏

昨年度に引き続き、いわて連携復興センター専任コーディネーターで、岩手大学客員准教授の船戸義和先生から、「総参加型の話し合いによる合意形成～ファシリテーション4つのポイント～」と題して講義をいただきました。

総参加型のアプローチで大事なことは、「住民総参加型」「話し合い文化の基礎づくり」「『自分たちごと』の価値観づくり」の3つであり、その話し合いを中立的な立場から進行し、合意形成を促進させる役割を担っているのが、「ファシリテーター」であることを学びました。



論点の整理(ホワイトボード活用)

また、ファシリテーションの4つのポイントである『場づくり』『意見を引き出す』『論点の整理』『まとめる』をグループ内でミニ演習を交えながら学びました。合意形成の演習では、グループ内でファシリテーターや板書係などの役割を分担し、実際に話し合いを行いました。

船戸先生のほか、いわて連携復興センター 地域コーディネーターの瀬川加織氏、酒井菜穂子氏、陸前高田まちづくり協働センター理事の黄川田美和氏の3名が各グループの講師となり、大切なポイントや細かいテクニックなど様々なアドバイスをいただきました。

演習後には、「振り返り」と「全体交流」があり、ファシリテーションの手法や実際の進め方について受講者全体で共有することができました。



瀬川 加織 氏



酒井 菜穂子 氏



黄川田 美和 氏

演習風景

合意形成とは、多様な意見をまとめ、みんなが納得する結論を出すこと

《受講者の声》

- どのように合意形成を図っていくか、実践演習を交えて学ぶことができ、とても参考になりました。
- 総参加型の事例を聞いて、人とのつながりの大切さを再確認しました。
- 実際にファシリテーターをやってみてもらうことで、難しさや工夫したほうがよいことなどを見つけることができました。
- 『説得ではなく納得』という言葉にとっても心が揺さぶられました。
- ファシリテーターの重要性やポイントなど仕事上に活かせることができそうです。

《受講者の評価》

A (有意義)	90%
B (どちらかといえば有意義)	10%
C (あまり有意義でない)	0%
D (有意義でない)	0%

《担当者(佐藤)から》

真剣ながらも楽しそうに学んでいる受講者が多く、とても良い雰囲気の研修講座になりました。また、グループ演習を通して、講師や受講者同士のつながりができていて、学びの広がりを感じました。